

地域協議会への諮問、答申のあり方などをめぐり活発な議論

上越市地域協議会検証会議が地域協議会会長との意見交換踏まえ検証作業

第2回上越市地域協議会検証会議（座長・岐阜大学准教授山崎仁朗さん、他に3委員で構成）が22日、市役所で行われました。前日の地域協議会会長さんたちとの意見交換会などで出された論点がどう引き継がれて議論されていくのかに注目して傍聴してきました。多くの人が傍聴されていたのには驚きました。

この日は地域協議会の検証にかかわる多くの課題がある中で、①地域活動支援事業のあり方、②諮問・答申のあり方、③委員の定数、任期、報酬などについて、④公募公選制の下でどう裾野を広げていくか、の4点に絞って3時間近く活発な議論が展開されました。今号では、そのうち①と②についてお知らせします。



地域活動支援

事業については、どう改善していくか様々な角度から議論が行われました。

前日の会長さんたちとの意見交換会では金額が多すぎる、足りないとする意見や他区への流用、残額の繰越などの意見がありました。検証会議では、「500万円の基礎部分を厚くし、人口割りの

部分を薄くしたらどうか」「3次募集までは必要ないのでは」「事業の執行時期との関係で流用は難しい」「柔軟に使える仕組みとするために繰り返しがあってもいいのでは」「市が本来やるべき事業をこの事業を使ってやるのはいかかなものか」「地域のソフト面を活性化させるといふ本来の趣旨にそった活用を」などの声が出されました。

興味深かったのは、今後の課題として、人件費でも使うことができるようにすること、団体設立を促すために財政支援することも検討対象にすることが決まったことです。新たな改善策が見えてきた感じがしました。

諮問・答申のあり方についてはこの間、（仮称）厚生産業会館基本構想案や名立区地域協議

会が提出した特養ホームについての意見書をめぐり議会などいろいろなところで議論されてきた経過があります。

この日の会議では、「行政と地域協議会が互いに話し合っても2者間で解決できないときには第3者機関が入ることも必要ではないか。ドイツなどで行われている市民集会、住民集会など市民を巻き込んで議論することも必要だ」「行政は基本的にオーケーをもらうために諮問している。どうしましょうかと訊くものではないのではないか」「（もめたとき）議会がどうかかわるかという問題もある」「議員が悩み深いやりとりを見て、議会に反映させることはありうる。それをどう担保させるかだ」などの意見が出されました。

市全域に影響のある問題については全区の地域協議会が自主審議事項としてとりあげることには異論はありませんでしたが、全区の地域協

議会に諮問することについては、「条例の趣旨からすると区域を限定することになる」「自主審議で意見書を出せばいいのではないか」「全市民的なことは議会で議論することになるのではないか」などとまとまらず、今後、さらに検討することになりました。

検証会議委員と地域協議会長が懇談

上越市地域協議会検証会議委員と市内28区

の地域協議会会長との意見交換会が21日、行われました。



2班に別れての意見交換だったので、半分の人たちの意見しか聞けませんでしたが、公募公選制、権限、任期、報酬などをめぐり活発な議論になりました。注目したのは公募公選制です。大方の会長さんたちが、「まちづくりをやる気のある人が出てくるのが基本」「これがないと、どこかの長ばかりが出る形になりやすい」など現状維持を主張していました。そういう中で、「若い人にいかに多く出てもらうか」「地域もれなく出てもらいたい」などの意見も強く出されていました。



【センブリ】漢字で「千振」と書きます。リンドウ科の二年草。早いのは9月ごろから花を咲かせますが、遅いのは11月に咲くことも。有名な薬草のひとつ。子どもの頃、煎じたものを飲まれた記憶があります。吉川区代石で撮影。

米山の山頂で休んでいたときのことです。突然、カランカランという音が聞こえてきてびっくりしました。見ると、私よりも数分後に登ってきた女性が薬師堂で祈りをささげていました。私は薬師堂の扉の前に鐘があることを初めて知りました。

この女性は山小屋の脇からすつと姿を見せると、私の知らぬ間に薬師堂の前に行っていました。動きの速さから判断すると、体をそうとう鍛えている人です。何を祈っていたのか、女性が手を合わせていた時間は長く、二分ほどにわたりました。微動だにせず祈り続ける姿は美しく、強く印象に残りました。

この日、私は久しぶりに米山に登りました。前回登ったのはまだ子どもたちが小さな頃でしたから、二十数年ぶりだと思います。

米山に登ることにしたのは、この日の素晴らしい青空に誘われたからです。急に、青空の中の米山に登りたくなつたのです。体力が続かず、登り切ることが無理であれば、女ならばまで行って戻ってきてもいいと思っていました。女ならばまでは登りたかと思っていたのは理由がありました。そこにたくさんあるツリガネニンジン姿を見たいと思っていたからです。

私がこの花と初めて出会ったのはある年の夏のことです。水野から米山へと登る登山道でした。登山口の駐車場までの道はまだ砂利道だった時代です。釣鐘状の、小さな薄紫色の花がスキの葉に隠れるようにして咲いていました。人目につかないところでひっそりと美しい花を咲かせている、それだけで惚れてしまいました。

秋から冬に向かおうとしている時期ですから、ツリガネニンジン花はとづくに終わっています。この日、女ならばで見たツリガネニンジン花は枯れてはいるものの、種をつけた状態ですくつと立っていました。この姿も素敵だと思いました。

登山道は急な坂道の連続です。八〇キロを超えた体で登るのは正直きつてきつて、何度も断念したくなりました。それでも頑張ることができたのは野の花のお陰です。「やはり無理かも」と思いはじめた頃、茎の最上部に袋状のものがあって、クルマバソウのような葉をつけた野の草を見つけました。これから花を咲かせるといった感じでした。初めて見る野の花かも知れない、どこかに咲いているはずだと胸がときめきました。アキノキリンソウも所々で私を励ますように黄色の花を咲かせていました。

不思議なもので、女ならばまで行くことができると、欲が出ました。「もつと上に登れば、袋状のものが花になっているかも」そう思っただけで力が沸いてきました。山頂までの道の周りでは紅葉が始まっていました。赤トンボも飛び交っています。ときどき、さわやかな風が体を冷ましてくれました。おかげで、山頂まで無事にたどり着くことができました。山頂ではマユミとノコンギクが出迎えてくれました。

山頂で出会った女性は私のことを知っている人でした。登山の途中で出会った袋状の花らしきものについて話すと、「たぶん、クルマユリですね」という言葉が返ってきました。袋状のものは花のつぼみではなく、真夏にオレンジ色の花を咲かせるクルマユリの実だったのです。

米山薬師は日本三大薬師のひとつとして知られていて、病気の苦しみから解放してくれる仏様だと言われています。薬師堂の戸を開けようとしたら、この女性から「重たいんですよ」と声をかけられました。確かにすごく重たい戸でした。やっと開けて、薬師如来に手を合わせたとき、海からの風が私の頬を優しくなでてくれました。

市内各地で文化行事活発に



秋たけなわ、市内各地で文化祭や音楽発表会などが行われています。私はここ2週間ほどの間に、市展や学校文化祭などに参加しています。20日には、吉川小学校の音楽発表会に招かれ、子どもたちの合唱や演奏を楽しんできました。

それでも みんな手と手をあわせれば 何かできる 何かできる」と大合唱しました。校長先生もリズムに乗ってタンバリンをたたいておられました。みんなの心に残るすばらしい発表会でした。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月16日(水)	10月23日(水)
上越南消防署	0.046	0.033
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.063	0.043
頸北消防署	0.056	0.046
頸南消防署	0.050	0.040
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.057	0.050
名立分遣所	0.050	0.048

学年ごとの発表では、生活科の学習で学んだことを歌に採り入れたり、手話をつけて歌ったりと様々な工夫がされていました。日頃から各学年の学びのステージに応じた音楽学習が行われているんでしょうね、「二部合唱に挑戦する」「様々な楽器でラテンのリズムに乗る」などそれぞれの学年の発表には課題と目標があり、関心を持って鑑賞できました。

市展の作品も鑑賞

12日、13日は市展の作品を観てきました。このうち、市民プラザ会場では、工芸、書道部門の作品が展示されていました。工芸作品では、すばらしい作品がいくつもありません。「おやっ、これは」と思ったのは佳作に入っていた工藤貞夫さんの「“DNA”二重螺旋 人類進化の歩み、繁栄か破滅か」です。作品は制作過程を何度も見ていました。いい仕上がりのでしたね。



米山の山頂で休んでいたときのことです。突然、カランカランという音が聞こえてきてびっくりしました。見ると、私よりも数分後に登ってきた女性が薬師堂で祈りをささげていました。私は薬師堂の扉の前に鐘があることを初めて知りました。この女性は山小屋の脇からすつと姿を見せると、私の知らぬ間に薬師堂の前に行っていました。動きの速さから判断すると、体をそうとう鍛えている人です。何を祈っていたのか、女性が手を合わせていた時間は長く、二分ほどにわたりました。微動だにせず祈り続ける姿は美しく、強く印象に残りました。

この日、私は久しぶりに米山に登りました。前回登ったのはまだ子どもたちが小さな頃でしたから、二十数年ぶりだと思います。

米山に登ることにしたのは、この日の素晴らしい青空に誘われたからです。急に、青空の中の米山に登りたくなつたのです。体力が続かず、登り切ることが無理であれば、女ならばまで行って戻ってきてもいいと思っていました。女ならばまでは登りたかと思っていたのは理由がありました。そこにたくさんあるツリガネニンジン姿を見たいと思っていたからです。

私がこの花と初めて出会ったのはある年の夏のことです。水野から米山へと登る登山道でした。登山口の駐車場までの道はまだ砂利道だった時代です。釣鐘状の、小さな薄紫色の花がスキの葉に隠れるようにして咲いていました。人目につかないところでひっそりときれいな花を咲かせている、それだけで惚れてしまいました。

秋から冬に向かおうとしている時期ですから、ツリガネニンジン花はとづくに終わっています。この日、女ならばで見たツリガネニンジン花は枯れてはいるものの、種をつけた状態ですくつと立っていました。この姿も素敵だと思いました。

登山道は急な坂道の連続です。八〇キロを超えた体で登るのは正直きつてきつて、何度も断念したくなりました。それでも頑張ることができたのは野の花のお陰です。「やはり無理かも」と思いはじめた頃、茎の最上部に袋状のものがあって、クルマバソウのような葉をつけた野の草を見つけました。これから花を咲かせるといった感じでした。初めて見る野の花かも知れない、どこかに咲いているはずだと胸がときめきました。アキノキリンソウも所々で私を励ますように黄色の花を咲かせていました。

不思議なもので、女ならばまで行くことができると、欲が出ました。「もつと上に登れば、袋状のものが花になっていくかも」そう思っただけで力が湧いてきました。山頂までの道の周りでは紅葉が始まっていました。赤トンボも飛び交っています。ときどき、さわやかな風が体を冷ましてくれました。おかげで、山頂まで無事にたどり着くことができました。山頂ではマユミとノコンギクが出迎えてくれました。

山頂で出会った女性は私のことを知っている人でした。登山の途中で出会った袋状の花らしきものについて話すと、「たぶん、クルマユリですね」という言葉が返ってきました。袋状のものは花のつぼみではなく、真夏にオレンジ色の花を咲かせるクルマユリの実だったのです。

米山薬師は日本三大薬師のひとつとして知られていて、病気の苦しみを解放してくれる仏様だと言われています。薬師堂の戸を開けようとしたら、この女性から「重たいんですよ」と声をかけられました。確かにすごく重たい戸でした。やっと開けて、薬師如来に手を合わせたとき、海からの風が私の頬を優しくなでてくれました。

市内各地で文化行事活発に

秋たけなわ、市内各地で文化祭や音楽発表会などが行われています。私はここ2週間ほどの間に、市展や学校文化祭などに参加しています。

20日は吉川小学校の音楽発表会でした。学年ごとの発表では、生活科の学習で学んだことを歌に採り入れたり、手話をつけて歌ったりと様々な工夫がされていました。日頃から各学年の学びのステージに応じた音楽学習が行われているんでしょうね、「二部合唱に挑戦する」「様々な楽器でラテンのリズムに乗る」などそれぞれの学年の発表には課題と目標があり、関心を持って鑑賞できました。

最後は児童、職員、保護者、じいちゃん、ばあちゃん、来賓、みんなで「ひとりの小さな手 何もできないけど それでも みんな手と手をあわせれば 何かできる

何かできる」と大合唱しました。校長先生もリズムに乗ってタンバリンをたたいておられました。みんなの心に残るすばらしい発表会でした。

市展の作品も鑑賞

12日、13日は市展の作品を観てきました。このうち、ミューゼ雪小町会場では、洋画・版画、写真が展示されていました。会場で出会った集落づくり推進委員の藤田さんに薦められたのは、安塚区伏野の和栗晨哉さんの洋画です。春の山菜採りの楽しさが伝わってくる作品を見て、和栗さんに会いたくなりました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月16日(水)	10月23日(水)
上越南消防署	0.046	0.033
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.063	0.043
頸北消防署	0.056	0.046
頸南消防署	0.050	0.040
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.057	0.050
名立分遣所	0.050	0.048